

平成26年度 学 校 評 価

多可町立八千代南小学校

1 学校教育目標

『笑顔ひろがり みんなで伸びる』
－学び合い・かかわり合い・夢がふくらむ学校－

2 めざす学校像

- 児童や保護者、教職員が信頼と誇りをもてる学校
- 活力に満ちた学校

3 めざす子ども像

- 考える子(知育)
- 思いやりのある子(徳育)
- やり抜く子(体育)

6 学校自己評価

4 重点目標

- 「確かな学力」と表現力をつける授業づくり
- いじめ・不登校のない楽しい学級・学校づくり
- 気持ちのよいあいさつと言葉づかいができる子どもづくり

5 努力事項

- 確かな学力を育てる
- 基本的生活習慣を確立する
- やさしく、たくましい心と体を育てる
- 特別支援教育の充実
- 子どもと子どもをつなぐ場づくり
- 地域から信頼される開かれた学校づくり

観点	評価項目	実践内容	取組の状況（11/12）	評価	来年度の取組・改善策
学 習 指 導	・基礎基本を大切に、確かな学力をつけるための授業づくりが工夫されたか。	・教師自身が「育てたい力」を意識するために掲示し、振り返る。 ・家庭学習の手引きが有効活用され、よりよい家庭学習ができるよう振り返りを行う。 ・学期毎に学級経営交流会を開き、学級づくり、授業づくりの手立てを考察する。	○掲示をしているが、常に意識することではできていない。 ○アンケートを実施することで、児童が自分の家庭学習の時間や内容を振り返ることができている。 ○互いに学級の課題を出し、聞き合うことで、改善への見通しをもつことができた。	3. 36	◎教師自身が「育てたい力」を意識する工夫をする。 ◎「家庭学習アンケート」は引き続き行い、来年度は自主学習の項目を増やす。 ◎学期末の学級経営交流会でのまとめは、今年度の様式を引き継ぐ。
	・自分の考えや思いをもち、伝え合うことができる子の育成が図れたか。	・テーマにより近づくために、サブテーマを具体化し、支援の方法を工夫する。 ・公開授業では、「授業評価シート」を活用し、授業者も参観者も観点を絞った研究をする。 ・研修会は講師を招聘し、より内容の深いものにする。	○サブテーマを「書くこと」にしたことにより、書く手立てを考えることができた。全国学力・学習状況調査で本校の課題である国語の「書くこと」の力をつけることにもつながっている。 ○シートを活用し、事後研修会では観点を絞り、研修を深めることができています。シートの書き方について授業者が迷うところがあるので、他校のように同じ観点にしてみてもよいと思う。 ○講師を招聘することで、研修が深まった。また、教職員の学びや特性を生かした研修をもつことで互いに学び合うことができた。	3. 36	◎サブテーマに「国語」を入れることにより同一歩調で研修できた。次年度も国語を研究し、書くことの指導内容、手立てをさらに研修していく。 ◎「授業評価シート」は、事後研修の観点を絞り、効率的に進められたので引き続き活用し、様式を再考する。 ◎全体研修、ブロック研修の持ち方は適切であり、全体での研究授業を1学期に1本行い、講師先生の講話を今後に生かす。 ◎教職員による伝達研修を来年度も続け、春にも図工の研修を行う。

観点	評価項目	実践内容	取組の状況（11/12）	評価	来年度の取組・改善策
道徳教育	・道徳の時間等における指導の充実が図れたか。	・主題や指導内容、方法を工夫した指導計画を作成し、副読本や地域教材などの利用、読み物資料の分析をするなどの教材研究を行う。	○今年度から使用する副読本については、まだ十分でないのでブロックごとに教材の分析をしていきたい。	3. 10	◎各学年の指導計画にそった授業の教材研究をし、実施できたか振り返る。
	・教育活動全体を通して道徳性を養うことができたか。	・道徳実践の基盤となる道徳的実践力(心)を育てる。	○授業研究においては、ブロック研修で実施の予定であるが、全職員で教材・主要発問などについても研究を進めていきたい。	2. 83	◎講師招聘を行い、全教職員による道徳研修は、必ず実施していくようにする。
	・家庭や地域と連携して道徳的実践を行うことができたか。	・道徳の全校授業研究、講師招聘による道徳研修を行い、全教職員が協力して進める。	○各学年の実態にあわせて3学期に授業公開するところが多い。	3. 00	◎生活指導や児童会との連携を図り、基本的な生活習慣を見直し道徳的実践力を身につけていく。
人権教育	・ほほえみなどの資料を活用し、カリキュラムの見直しを進められたか。	・道徳の時間で学んだことを基盤に、休憩時間や給食・清掃時間等生活の中で実践できるようにする。	○毎日の生活の中で振り返りをしている学年が多く、少しずつ道徳実践力が高められてきている。		◎行事や福祉体験、清掃活動などの体験を通して、自立心や自律性を育てていく。
	・全体計画をもとに、それぞれの教科・領域で指導が進められたか。	・授業参観やオープンスクールで道徳の授業公開をする。			◎各学年、授業参観やオープンスクールで道徳の授業公開をする。
	・いじめを許さず、一人一人を大切にしたい取り組みができたか。	・基本的な生活習慣、ルールなどを身につけ、道徳的実践を高める。			
人権教育	・ほほえみなどの資料を活用し、カリキュラムの見直しを進められたか。	・学期ごとにふり返り、カリキュラムの見直しを行う。	○現在、カリキュラムの見直しができていない。今後見直しを行う。	2. 27	◎ほほえみなどの資料の活用例や実施状況を確認し、カリキュラムの見直しをきちんと行う。
	・全体計画をもとに、それぞれの教科・領域で指導が進められたか。	・友だち集会の実施や、人権標語、人権ポスターなどの呼びかけ、校内掲示を行い、人権意識の高揚を図る。	○友だち集会、及び人権標語の呼びかけ等、今後実施予定である。	2. 50	◎友だち集会を学期に1度実施する計画を立てる。1学期には「言葉の花を咲かそう」、2学期には「人権標語、ポスターコンクール」、3学期には「歌」というように内容を変えながら実施したい。
	・いじめを許さず、一人一人を大切にしたい取り組みができたか。	・児童の実態把握のため、隔月でともだちアンケートを実施する。	○毎月のともだちアンケート実施及び、生活指導委員会より、児童の様子を掴み、教員間で共有することができた。	3. 42	◎個別懇談の有り無については、要検討の必要が有る。
人権教育	・いじめを許さず、一人一人を大切にしたい取り組みができたか。	・児童と教員との個別懇談会を実施する。	○個別懇談の実施ができていない。別の時期に実施を行いたいと考えている。生徒指導上必要な懇談は随時行っている。		

観点	評価項目	実践内容	取組の状況（11/12）	評価	来年度の取組・改善策
特別支援教育	・学校ぐるみでの共通認識・理解のための研修が進められたか。	・実践力を高めるために講師招聘の研修を進める。 ・定期的に情報交換会を持つ。（職員会議など）	○1学期の早い段階で特別支援学級児についての研修を持つことができた。その際の研修で、通常学級に在籍する支援を必要とする児童についての共通理解を持つ研修をすることができた。	3. 62	◎1学期の早い段階で、特別支援学級児だけでなく、通常学級の全児童についても観察とアドバイスをいただけたのはよかった。来年度も継続したい。
	・個々に必要な支援についての研修は、有効であったか。	・研修内容を日々の取り組みで生かす。 ・自分のクラスだけでなく、学校内の全員に目を向け支援する。	○職員会議等で定期的に児童の情報交換を実施している。 ○日常の会話の中でお互いに相談に乗り合ったり情報交換をしたりしている。	3. 17	◎今年度の研修に加え、通常学級にいる「支援を必要とする児童」への対応の研修が今後必要である。
	・個々に必要な支援ができたか。	・児童一人一人に、必要且つ適切な支援をする。	○専門的なアドバイスが必要な場合は市位コーディネーターにアドバイスをいただいている。	3. 00	◎日程の問題もあるが、2学期3学期にも地域コーディネーターを招聘し、児童の実態把握と対応についてのアドバイスを継続的に受けられるように計画を立てたい。
体力づくり	・児童が主体的にスポーツに親しむ習慣や意欲、態度を育てることができたか。	・なわとびの時期には、ジャンプボードを出したり、普段からドッジビーを貸し出したりして、様々な運動に積極的に関わられるようにする。 ・上級生には有能感を、下級生には上級生へのあこがれをもたせるために、異学年で体育の時間を設定する。	○ドッジビーを借りに来る児童がいない。全体に広める必要がある。	3. 42	◎児童が主体的に運動するためには、教師の関わり方が重要であると感じる。体育の研修会を行い、指導の技術を伝えたり、交流を図る取り組みを進めていく。
	・時期に合わせて、子どもの体力向上の週間を設定し、子どもの体力向上を図る取り組みができたか。	・かけ足や、なわとび運動、鉄棒運動、一輪車を行う際には、カードを用い、進んで取り組ませるようにする。	○ミニ運動会に向けての練習、運動会の練習で異学年での体育を行った。普段の授業では、1・2年合同で体育を行った。2年生は、1年生にやり方を教え、上級生らしい姿が見られた。 ○かけ足、なわとびのカードは作って取り組ませる予定であるが、今年度は一輪車や鉄棒についてはできていない。 来年度、全てのカードを冊子にして渡す予定である。	3. 45	◎多くの遊具を使って体を鍛えられる体育ノートを作る。また、ノートを見ることで様々な運動の技が分かり、意欲をもって取り組めるノートを作成したい。

観点	評価項目	実践内容	取組の状況（11/12）	評価	来年度の取組・改善策
特別活動	・自主的、実践的な活動の活性化に取り組めたか。	・学年に応じた話し合いのルールを決め、話し合い活動を充実させる。	○月に一回代表委員会をひらき、一月ごとの振り返りを行った。反省を元に、次月の生活目標を決めた。決まりを守るための手だてが必要である。児童会を中心に話し合い実践している。	3. 18	◎学級での振り返りを全校の取り組みに生かすことが出来た。生活目標を守るために、児童会が中心となって話し合い、ルールを決めることが出来た。
	・学校行事を精選し、行事内容を充実させることができたか。	・係り活動・当番活動に一生懸命取り組ませる。		3. 00	◎学校教育で大切にすることを明確にし、大集会の内容・回数を精選する必要がある。
	・発達段階に応じた社会性の育成に取り組めたか。	・学校生活の諸問題に対して、児童会役員を中心に自分たちの手で解決していく態度を育てる。	○児童会役員を中心にあいさつ運動を行っている。代表委員にも学期に一度一月間参加し、一年間を掛けて取り組んでいる。	3. 50	◎児童会役員や6年生がお手本になって、下学年をしっかりとリードすることができた。
	・各教科との関連を図った指導が行えたか。	・異学年、または全校で協力し、集団活動の活性化に取り組む。 ・地区児童会活動を通して地区内での生活の様子をふりかえる。 ・クラブ活動は、児童の力で計画・運営し、自主的に実施する態度を育てる。	○学期ごとに4～5回異学年交流を行っている。交流のない学年もあるため、計画的に進めていきたい。また、学期に1回、小集会を開いた。6年生が中心となり、計画的に進めることができた。	3. 42	◎児童会を中心に楽しく交流できる活動を計画し、実行できた。地区児童会によって生活の振り返りが十分に行われた。クラブ活動の時間数は適当であった。
総合的な学習	・年間計画に即して創意工夫を生かした学習を進めることができたか。	・地域の施設や人材を積極的に活用する。	○なか八千代の森公園、町内の公共施設、社会福祉協議会、保健師さんなど地域の施設や人材を活用して学習を進めることができた。	3. 20	◎地域の施設や人材の協力を得て、学習を進めることができた。その実践を参考にしながらさらに効果的、計画的に施設や人材等の活用を図っていききたい。
	・児童が問題の解決や探求活動に主体的に取り組む態度を育てることができたか。	・児童の発達段階、教科等や学校行事との関連を考える。 ・課題を追求したり、考えを発表したりする方法例を具体的に提示する。	○国語科、社会科などの教科と関連させたり、修学旅行、自然学校などの学校行事の事前学習や事後のまとめをしたりした。また、児童会活動と関連して児童が主体的に計画、立案し活動を進めていくことができた。 ○課題の追求や発表は十分にはできていない。	3. 10	◎学年に応じた学習を行うことができた。実践の記録等を残し、次年度の年間計画の参考にできるようにしていきたい。 ◎国語科で学んだ書くことや話すことなどの学習を生かす場として総合的な学習を効果的に進めていく必要がある。

観点	評価項目	実践内容	取組の状況（11/12）	評価	来年度の取組・改善策
図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動の向上や読書習慣定着を図れるよう積極的に推進できたか。 各教科特別活動などにおいて、学んだことを確かめる、資料を集めて読みとる、自分の考えをまとめるなどの主体的な活動を推進することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみの読書として、読書マラソンを推進する。 子どもの読書週間や秋の読書週間での取組を通して、読書の楽しみを味わわせ読書の習慣付けをする。 図鑑などの資料を読み深め活用し、学習に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書マラソンやうちどくりレー等に取り組み、100冊達成者には表彰をして、意欲向上に努めた。 ○読書週間には、お話し会をはじめ、うちどくカードやおはなしクイズラリーなどで読書に親しむ取組を行った。 ○読書画コンクールを通して本と触れ合う機会を設けた。 ○町立図書館との連携を図りながら、学習に活用できるような取組が一部できたが十分とは言えない。 	<p>3. 83</p> <p>3. 18</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎読書に対する意識向上が図られている。多可町読書推進計画最終年度でもあり、引き続き全職員で取組を進めていきたい。 ◎年度初めに各教科において図書を活用する学習を整理しておき、計画的に図書室や町図書館を利用する必要がある。
清掃指導	<ul style="list-style-type: none"> 進んで清掃活動に取り組めるように工夫することができたか。 教師も子どもと共に取り組めたか。（協働）・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあて「日本一美しい学校にしよう」を持たせて活動する。 ・「がまん玉」・「みつけ玉」・「しんせつ玉」の三つの玉を磨くという指導により、メンタル面を高める。 ・掃除マニュアルを作成し、きちんと最後まで責任を持って活動できるようにする。 ・成就感が持てるように工夫する。 ・道具の充実 ・それぞれの清掃分担で指導を行い、できない部分は丁寧な指導、手本を見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活目標として取り上げ、全校一斉に取り組めたのでよかった。三つの玉については、全職員で児童に指導でき、効果が見られてきた。 ○委員会活動で教室掃除の仕方を話し合い、掃除マニュアルを作成し、各教室に掲示した。 ○掃除道具の点検を行ってきた。2学期より、モップを使用することで、より意欲的にしている。 ○トイレ掃除は、毎日担当で声かけをしたり、一緒にしたりしてきた。ゴミの処理などもきちんとできるようになってきた。 	<p>3. 25</p> <p>3. 42</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎めあてを持って清掃活動に取り組ませたい。活動前にめあてや活動内容の放送を流すことで意欲的にできるように促していく。 ◎「がまん玉」・「みつけ玉」・「しんせつ玉」の三つの玉を磨く指導により、メンタル面を高める。 ◎委員会活動主催の月1回の美化コンクールは効果的であった。さらに来年度は点検活動を増やしたり、分りやすく利用しやすい掃除マニュアルを作成したりして全校生の清掃活動に対する意識づけを図る。 ◎道具の充実により一人一役責任を持った清掃活動にしていきたい。 ◎1学期に正しい掃除の仕方を指導する。特にトイレ掃除は難しいので、丁寧な指導と協働ができるようにしていく。 ◎美しくなった所や態度を褒めるなど成就感を味わわせる機会をより多くもつようにする。

観点	評価項目	実践内容	取組の状況（11/12）	評価	来年度の取組・改善策
生活指導	・児童に基本的な生活習慣を身につけさせたか。	・「7つの約束」を基本とした生活目標を設定し、基本的な生活習慣を身につけることができるようにする。 ・児童会と連携した取り組みを進める。 ・学期に1回、7つの約束アンケートを実施し、自分の行動を振り返らせる機会とする。	○朝会や下校時の集会、また放送を利用しながら全校生に呼びかけてきた。具体的な事例やアンケートの結果などをもとに呼びかけるなど、継続した指導を大切にしてきた。しかし、取り組みの評価（子どもの姿）がどうしても曖昧になる。学級での取り組みを柱にしながらも、全校での具体的な取り組みの方法を検討することが必要なのかも知れない。	3. 50	◎7つの約束への子どもたちの意識が高まってきた。根気よく取り組みを続けたい。「おしゃべりはしないで掃除をしよう」と取り組んだように具体的でわかりやすい方法を工夫していきたい。そこでは、児童会だけでなく道徳や人権、清掃指導などの各担当と協力しながら取り組みを進めていくことが必要である。また、7つの約束への個人の目標をもたせた取り組みも来年度に繋がったと感じた。 ◎友だちアンケートをなおざりにせず、子どもからの情報収集を大切にしていきたい。また、職員から生指担への連絡がさらに密になるようにしたい。学校全体の状況や見守っていききたい子どもの様子などを全職員が知り、対応できていく組織でありたい。 ◎地域での様子を把握するためにも、補導は実施したい。情報モラル研修も引き続き実施したい。
	・情報収集をし、問題行動等の未然防止や早期発見に努めているか。	・生活指導委員会や職員会議での情報交換、月1回の友だちアンケートの実施などにより情報収集をし、早期発見、早期解決に努める。 ・登下校指導や地区児童会、休業中の補導などにより、地域での児童の情報収集をし、早期発見、早期解決に努める。 ・情報モラル研修を実施する。	○口頭や紙面での情報交換をすることで学校全体の様子を知らせたり、全員で目をかけたい児童を知らせたりしてきた。また、情報収集により問題行動として挙げられたことは、必ず指導をするように心がけた。早めに芽を摘むことで、問題行動の広がりを抑えてきた。 ○登下校や地区児童会での情報は利用できなかった。また、長期休業中の補導も実施できていない。 ○11月、4～6年を対象に実施予定である。	3. 92	
防災・安全教育	・安全点検、防犯防災訓練などを行うことにより、未然に事故防止を図る取り組みが進められたか。 ・防災教育副読本等を活用し、防災教育の実践の深化・充実を図っていたか。 ・交通安全指導（登下校指導等）は効果的に行われたか。	・防災訓練を定期的に、また時期に合わせたものを設定し、教職員や児童ともに災害時の動きや、考え方を学ぶ。 ・毎月の安全点検を行い、事故の未然防止に努める。 ・各学年に配布できないので、時期をずらして活用し、どの学年も防災の意識をもてるようにする。 ・ささゆりサポートの方との連携をとり児童の安全な登下校に努めると共に、子どもたちの様子を把握し、指導を徹底する。	○6月に行ったので、次回は空気が乾燥する11月下旬に行う予定である。今回は、ハンカチを持ち、腰をかがめて迅速に外へ避難することができた。 ○毎月行っており、事故の未然防止に役立っている。 ○現段階では行っていない。1月に行う予定である。 ○交通安全指導は、地区担当の先生や気になる児童の担任等による登下校指導を行い、落ち着いてきている。10日・20日の登校指導や下校指導も行っている。	3. 54 3. 27 3. 08	◎交通安全教室を行うことができなかった。しかし、自転車の乗り方などの安全指導は必要なことであるので、来年度は交通安全教室が実施できない場合でも集会で行う計画とする。 ◎読み物での学習だけでなく、校内の危険箇所を調べるなどの活動を取り入れたい。 ◎先生方に声かけを行い、交通安全指導がどのように行われているか、また、気になることを聞くなどの手立てが必要と感じた。

観点	評価項目	実践内容	取組の状況(11/12)	評価	来年度の取組・改善策
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・PC教室でのPCの使い方、タブレット端末の研修が進められたか。 ・児童が課題に応じてICTを積極的に利用できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実践力を高めるために、活用に向けて校内研修を持ち、活用方法の共有を図る。 ・研修内容を授業研究や平素の取組みに生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現段階では行っていない。タブレット端末は、特に学校統合後活用場面が増えることが予想されるため、来年度は夏季休業中に研修を行いたい。 ○校内研修を行っていない。ICTは高学年を中心に調べ学習や、メール、掲示板、また書画カメラを用いた発表活動において活用することができている。 	1. 91 2. 36	◎タブレット端末の研修会に参加し、伝達講習会を設定する。その際、タブレット端末などを用いたICT教育の現状や活用事例について紹介を行う。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・「食」を通して、児童の健康づくりや、楽しく食べる態度の育成が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と関連させながら、年に数回、栄養教諭やゲストティーチャーを招き、食に関する学習を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○栄養士グループ「そらめくくん」および栄養教諭を講師に招いて、栄養指導・給食センターの仕事などについて、講話や映像により学習を深めた。 ○栄養教諭が作成した、食に関する指導用教材「ひとくちメモ」を、給食委員会の常時活動として、給食時間中に校内放送を通じて読み上げ、「食育」の一環としている。 	3. 25	◎各教科、特別活動および日常的指導を通じて、「食」に関する興味や関心を喚起するとともに各学年の発達段階に応じた指導時間の確保に努める。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとの協力体制のもと、計画的な指導と、児童の活動への意欲的な取り組み、英語でコミュニケーションを図ろうとする態度が見られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フリップやスライド、英語ノートを活用し、外国の文化や言語を理解し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スライドは活用できていないが、フリップや教科書のリスニング、チャンツを用いて会話の基礎的な部分を学ぶことができている。また、英語を用いて友だちと意欲的に交流しようとするコミュニケーション態度も育むことができている。 	3. 40	◎ALTと担任との打ち合わせができる時間の確保や、その他の方法を模索する必要がある。また、英語を用いて友だちと意欲的に交流しようとするコミュニケーション態度をさらに育むためにはどうすれば良いか引き続き学び合うことも大切にしたい。

観点	評価項目	実践内容	取組の状況（11/12）	評価	来年度の取組・改善策
福祉教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の大切さや思いやりの心など福祉に対する心情を育てることができたか。 ・高齢者や生活弱者や障害者への理解を深め、福祉活動に関心を持って、取り組んでいこうとする意欲や態度を育てることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業でやさしさ、思いやりの心情を育てる。 ・生活の中で友だちと協力することの大切さを知らせる。 ・福祉体験を行い、思いやりの心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意図的に教材を選んで、授業の中でやさしさ、思いやりの道徳的価値に触れるようにしてきた。 ○困っている友だちがいるとやさしく声をかけたり、手伝ってあげたりする様子が見られた。 ○4年生の福祉学習では、アイマスク、車いす、手話体験などを通して、自分ができることは何か考え、思いやりの心がもてるようになってきた。 	<p>3. 36</p> <p>3. 50</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎道徳の授業で生命の大切さや思いやりの心など福祉に対する心情を高めていき、生活の中で生かしていけるようにする。 ◎福祉活動などを通して自分ができることは何かを考えさせ、ボランティア精神を身につけていくようにする。 ◎児童会を中心にアルミ缶収集などの福祉活動を進めていく。

学校関係者評価

- ・いろいろな取組をしてもらっており、今後も変わらずやっていってほしい。
- ・読書もよくやっているようで、良い本からいろんなことを吸収できるように図書室の充実を図ってほしい。
- ・統合にむけての問題が、いろいろ出てくると思う。区長を今後も評議員に入れて、各地区の声を聞いていくようにしてほしい。
- ・バス乗車の安全性の確保をめざしてほしい。
- ・道徳や人権学習の充実を図ってほしい。
- ・学校を訪れる機会ごとに本当にこまめにやって取り組んでもらっている。統合しても今までどおりしっかりとやってもらえると期待している。
- ・保護者も入っての食育の勉強会の機会があればよい。